

【事業実績】

1. 様々なメディアや多世代に働きかけるイベントを通して、砺波の民具や昔の暮らしに関心をもつ

ア. 小・中学校「ふるさと学習」の道具体験



イ. 幅広い世代に応じた企画展「季節の展示」



<https://www.city.tonami.lg.jp/blog/tonamiteki/280p/>

ウ. 砺波の民具「衣の歴史」の発行



小・中学校の「ふるさと学習」や米づくり体験では、今の生活と比較して昔の様々な道具を体験することで、暮らしの工夫や農作業の苦勞を身近に感じていた。

また、「季節の展示」では、テーマに沿って衣・住の民具にスポットを当てて紹介することで、新たな発見を感じられる展示にした。冊子「衣の歴史」は衣服の移り変わりや砺波地方の布に関わる生業をまとめ、体系的に学べる内容とした。

2. ARの画像、動画、アニメーションの機能を生かした展示と広報方法の構築

ア. コンテンツ企画、検討（10月～11月）、制作（11月～1月）

- ① コンテンツ制作の初年となる今年は農作業に関わる道具の資料を制作した。大型機械による農作業を見かける程度の若い世代に、昔の米作りの過程や道具の使い方、作業の苦勞、道具の移り変わりを適切に伝えるために、昭和初めの古い作業映像や再現映像の収集・選定を行った。
- ② この画像に平易なアニメーションを入れたり、作業の様子を比較する画像を加えたりした。また作業の解説者をおばあちゃんとして、小学生にも親しみやすく、分かりやすい内容にした。
- ③ 試作したものを農業経験者や民具ボランティア、学校関係者を加えて校正を重ねた。また巡回意欲を高めるために見学シール（ご褒美シール）も制作した。

イ. コンテンツ公開（1月24日より）

公開初日は、ふるさと学習で砺波民具展示室を訪れた小学3年生に学芸員が学習用タブレットを使って、昔の農具の使い方や米作りを解説した。児童は田起しから田植え、収穫、米の選別までの動画と実際の農具を比べるように熱心に観察していた。



〔児童の感想〕 ・終わりにおばあちゃんのクイズがあっておもしろかった。

・実際に画像があって、リアルで分かりやすくてよかった、との声が聞かれた。

また、見学した児童に人気があったご褒美の「見学シール」は、①中耕除草機、②犁、③らせん水車のものだった。この見学の模様は新聞社やCATVによって報道された。

学校側からは、映像で作業の様子が分かり、実物が前にあって①農具の仕組みがよく分かる。②近くに体験できる農具もある。映像を見て、実際の農具の仕組みを見て、体験をしていっそう関心が高まった、と評価を得た。

この見学活動後にも、親子、兄弟で民具展示室を訪れた児童生徒があった。



資料8点
のURL

1	https://youtu.be/cs3dpriQQLA	万石	5	https://youtu.be/9iC5aBLxie4	犁
2	https://youtu.be/58tOiWxrzwI	らせん水車	6	https://youtu.be/gt9KdKM-W0M	足踏脱穀機
3	https://youtu.be/FOtBsV064UI	田植え定規	7	https://youtu.be/v8PbQyTaBcM	千歯こき
4	https://youtu.be/9pWiqrB4tLo	唐箕	8	https://youtu.be/zgIHm_JGQg0	中耕除草機

3. 連携各館、関係団体の特徴や機能、強みを生かして多様な事業展開、連携体制の整備

ア. 小・中学校「ふるさと学習」の共催や地区公民館、農業団体と連携によって各種体験活動を行った。

○昔の農業体験活動支援 「昔ながらの米作り」



昔の米作りを伝える古老が少なくなっており、これを支援する団体づくりが急務になっている。

稲刈り

千歯こ

き体験

足踏み脱穀機体験

4. 実物に触れる、比べる、試す、味わうなど体感、感動をキーワードに体験を通した事業の展開

ア. 民具の手入れ ー虫干し体験会ー (10月)

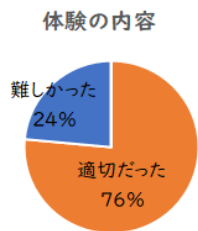


収蔵する衣類を支援グループと参加者が虫干し作業を行った。一点一点傷みを確認して室内干しをした。

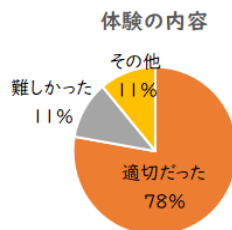
作業の合間に着物の手入れや子供の着物の直しが話題になり、よい体験会になった。

イ. 企画展等に連動したワークショップ

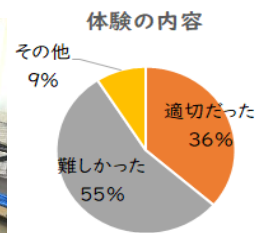
三助焼体験



竹スキー作り体験



筵織り体験



三助焼体験は、企画展に連動した体験として実施した。初めに窯元から三助焼の歴史と特色である緑色は地元の土と草木灰が作るとの講話を聞いて製作にとりかかった。

また、筵織り体験では機械の仕組みや製作手順を習って作業体験を行い、竹スキーづくりでは親子で昔の家庭生活スタイルを経験した。こうした体験から砺波地方の生活文化に触れることができたとの感想を多く得た。

ウ. 民具再生公開事業 (バンドリ)



バンドリは農家には欠かせない雨具である。戦前までは家庭で織ることもあったが、現在は砺波地方でも製作できる愛好家は数人と思われる。またこの製作には長く丈夫なニゴの稲わらが必要とされ、稲わらの選定も難しいのが現状である。この製作過程は動画収録を終えており、動画配信する予定。

5. 砺波の民具や地域文化理解のボランティアグループの育成と懇談会

ア. 民具の活用 (研修会、体験会)

民具の手入れや観光ボランティアなど様々な支援団体やボランティアグループの協力を得ている。また民具の保存、活用を進めるために民具ボランティアの育成に努めている。こうした団体やグループの懇談会では、ARコンテンツ制作と分かりやすい展示の工夫を話題として様々な意見が交わされた。今後も貴重な意見提供の機会を継続することになった。

